

食品の安全性と動物衛生の向上のための プロジェクト[新規]

【681（一）百万円】

対策のポイント

ヒ素、カビ毒や食中毒菌のフードチェーンにおけるリスク低減技術と高病原性PRRS、口蹄疫等の重要家畜疾病の侵入・まん延を防止する技術を開発します。

<背景／課題>

- ・現在、食品の国際規格を定めるコーデックス委員会において、コメ中のヒ素の基準値の設定が検討されており、我が国としても吸収抑制技術を開発し、その低減データを早急に取得する必要があります。また、同委員会から農作物などのカビ毒に対してリスク管理措置の導入が求められていることから早急な対応が必要です。
- ・近年、これまで原因が不明であった食中毒の原因として、損傷菌の関与が疑われており、その特性の早期解明とリスク低減技術を開発する必要があります。
- ・我が国の近隣諸国では口蹄疫、鳥インフルエンザ等が継続的に発生するとともに、新たに高病原性PRRS（高病原性豚繁殖・呼吸障害症候群）も発生しており、これら重要家畜疾病の我が国への侵入、まん延を防止するための技術開発が必要です。

政策目標

- 国際基準やリスクの実態に適合した安全性の高い農産物の生産
- 重要家畜疾病の侵入・まん延防止による経済的損失の未然防止

<主な内容>

1. フードチェーンのリスク低減に向けた基盤技術の開発

フードチェーンにおける食品中の危害要因であるヒ素、カビ毒や有害微生物の損傷菌について、その動態及び特性の解明を行うとともに、検出・制御技術を開発します。

2. 重要家畜疾病の侵入・まん延の防止技術の開発

高病原性PRRS、口蹄疫、鳥インフルエンザ、豚コレラ、非定型BSEの特性解明により、迅速・高感度診断法や新たな疾病にも対応可能な防疫システムを開発するとともに、効果的なワクチンを開発します。

（損傷菌とは）

今まで検出が困難であったため見過ごされてきたが、人体内で蘇生して中毒を起こす仮死状態の食中毒菌（O-157、サルモネラなど）

（補助率：定額
事業実施主体：民間団体等）

お問い合わせ先：

農林水産技術会議事務局研究開発官（食の安全、基礎・基盤）

（03-3502-7430（直））

食品の安全性と動物衛生の向上のためのプロジェクト

背景・ニーズ

- コメのヒ素の最大基準値の設定や農産物に含まれるカビ毒の低減について国際的対応が必要。また、国内外で食中毒事件が発生する中、損傷菌の関与の疑い
- 海外において、口蹄疫、鳥インフルエンザ、豚コレラ等が継続的に発生する中、新たな豚の疾病(高病原性PRRS)も発生・まん延し、我が国への侵入も危惧

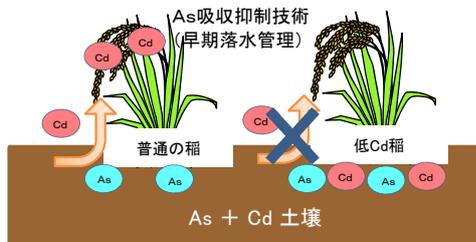
- 日本農畜水産業の持ち味の一つである「安全」を一層強固なものにするため、
- ① フードチェーンにおける危害要因に対応するための基盤技術の開発
 - ② 我が国での発生が危惧される重要家畜疾病に対応するための基盤技術の開発が必要。

研究内容

本プロジェクト

フードチェーンのリスク低減に向けた基盤技術の開発

- ヒ素(As)とカドミウム(Cd)のトレードオフを考慮したヒ素吸収抑制技術の開発
As吸収抑制技術で低Cd稲を栽培することにより、AsとCdともに吸収を抑制



- 科学的知見の少ないカビ毒の産生を低減する栽培管理技術の開発
- 損傷菌の特性解明、検出・制御技術の開発

重要家畜疾病の侵入・まん延の防止技術の開発

- 農場で活用できる高病原性PRRSや豚コレラの簡易診断キットの開発
- 従来と症状の異なる新型疾病の発生にも対応できる防疫シミュレーションシステムの開発
- 点眼ワクチンを基盤とした感染予防効果の高い鳥インフルエンザワクチンの開発等



期待される効果

- フードチェーンのリスク管理の高度化
- 疾病の発生予防、発生時の早期発見と迅速な初動対応

我が国の食品の安全性向上と食料の安定供給基盤の確保に貢献